

対農科中尾は分、早大小高対高野は小高の勝、東脇三井対内田(協)は三井の勝、独協日下部対京北久本は久本の勝、深田永田対講荒野は分、錦城今城対附属箕作は箕作の勝、深田片岡対慶応山崎は分、講前田対深田平野は前田の勝、講前田対関は前田の勝、講福井対藤野は福井の勝、日蓮秋村対田村は田村の勝、青師長屋対藤村は長屋の勝、青師寺田対植田は分、錦城安藤対神崎は神崎の勝、深田長瀬対講伊藤は分、講祖父江対桜井は桜井の勝、一高宮崎対鈴木は鈴木(協)の勝、外語立山対講吉田は分、講伊藤対須藤は分、講前田対大部は分、高師真田対辻村は分にて段外勝負を終り講道館投の形佐藤、子安両二段、極の形小田、笠井両二段等演し引続き有段者勝負に入る高師初段会田対成城同三矢大外刈にて会田の勝、慶応初段中野対同永富は足払にて中野の勝、講初段鈴木対同安保は分、帝大初段津山対明大同中山は中山の勝、講初段谷貝対同片山は片山押込、跳腰にて勝、成城初段緒方対同高師富田は払腰にて緒方の勝、明大初段勝呂対同守分は守分背負投にて勝、高工初段秋元対東協同松本は左跳腰、内股を以て松本勝、明大初段牛島対講同村田は釣込腰にて牛島勝つ、早大初段尾崎対同宮尾は分、早大二段荒木対二段佐藤は分、最後に講道館の金光彌一兵衛三段に対して本大学の宮尾安保の両初段、子安、小田、武田の二段にて五人掛勝負を為し安保を逆十字に宮尾を跳腰に、子安を跳腰に、小田を大内刈に武田を小外刈りにて尽く打破りて金光三段全勝す、伊藤会長の挨拶(後段剣道部に於けるものと同様)、商品の授与等ありて来賓其他に晚餐を饗し午後七時全く散会したり因に今回伊藤会長

の発案に成りし名譽なる金銀の賞牌受領者は一等金牌—三段金光彌一兵衛、深田道場一級鈴木好及本学生四級岩田勝二郎の三君、二等銀牌—高等師範学校初段会田彦一、講道館初段中山的、明治大学初段牛島昇、東洋協会専門学校初段松本達夫、本学初段片山国忠、高等商業学校二級中川喜一郎、講道館一級前田尚文、東洋協会専門学校一級三井直助、附属中学校二級箕作秋吉、第一高等学校一級伊藤保三郎、講道館二級桜井金吾、高輪中学校二級小栗進、附属中学校二級長谷川慶三、本学生一級辻村貞三、一級大部二郎、二級内田栄五郎、三級田村一郎、三級石川勝夫の諸君なりき

又中央大学学友会剣道部に於ては旧臘七日午前九時より中央大学剣道部第八回大会を同大学大講堂に於て開催せられたり會長岡村学長に代りて伊藤理事及び太田部長臨席せられ各中学校選手三本勝負に続き同大学学生の三本勝負及び紅白勝負あり初め紅白両軍互角の勢にして一勝一敗互に相下らざりしか白軍の遠山、橋本、鷹木、豊島等善く戦ひて紅軍為めに甚た振はざりき時に紅軍の中堅酒井奮闘力戦白軍四人を斃し武藤、深谷相前後して出て江端、石渡等を屠りて將に敵軍を全滅せんとする氣勢を示して白軍の副將須田氏に迫る、力及はず深谷、須田に邀ひ搏たれ紅軍の副將山崎も亦踵を接して斃る紅軍の大將佐藤出て須田を搏ち併せて白軍の將高野を斃す紅軍依つて凱歌を奏す時既に正午、一時間休憩後各大学専門学校の選手三本勝負に移る総て五十組百人中瀬瀬(一高)、中島(高工)、飯倉(農大)、山田(有信)、重戸(錦警)、佐藤(中央)、沖津(中央)、稲月(一高)

後藤（慶応）の九名技術態度最も優秀なるものとして其選に當り番外参本拔勝負あり稲月君三人抜きて最高点者たりき番組中学生側の精銳を集めたる飯田（農業）城島（東協）佐藤（中央）市毛（高商）沖津（中央）菰田（明大）对各師範中鋭鋒當るへからざる少壮劍士今泉来蔵先生の七人掛壹本拔勝負は最も力瘤を入れるべきの試合なりき七人奮闘善戦飯田、沖津、市毛の三名斃れしも城島、佐藤、後藤、菰田生還し学生方の大勝たり此較々敵を悩ませる四勇者更に壹本拔勝負をなし同大学幹事佐藤正之氏より特に贈られたる初代国路の名刀は最高点者菰田君の手に落ちて同君の床上に名誉ある飾りとなる最後に各学校選手对中央大学学生及び校友の紅白壹本拔勝負ありき初め紅軍優勢にして白軍の士氣振はさりしか連合軍の坂本三人長山二人佐藤三人相次て紅軍を抜き形勢忽ち一変せり佐藤紅軍の大將菰田に敗れしも飯田出て鋭鋒を挫き白軍為めに大將遠山を始め沖津、武藤の三名を残す、紅軍因つて大敗せり會長に代り伊藤理事は『従来武道大会に於ては一に勝負の結果に依りてのみ「メタル」を賞品として授与し来りたるか近時「メタル」を授与する趣旨と背馳するか如き弊風あり其は他にあらす「メタル」を得んか為めに勝負を為すか故に体育奨励の精神を顧みず其手段の如何を問はず専ら勝を制せんとするに至れることは是なり甚しきは委員等の手を經て席上試合を為さざる者も往往にして「メタル」を得るか如き奇観を呈するやに聞く斯の如きは洵に痛歎の至なり、仍て本学は此弊風を避けんか為め今回より勝者に単に「メタル」を与ふることを廢して別に証状を与へ「メタル」

は之に添ふることとせり其証状は当日の勝利を賞するの趣旨にはあらずして真に斯道の練磨を遂けたるものと認めらるるや否やを証明するに在り即ち証状は平生の稽古に依りて鍛へ得たる成績を明にするものとす故に極端の場合を想像すれば必ずしも勝者にのみ之を与ふるに限らざるへし以て「メタル」濫与の弊を革めんとするなり抑も体育の一方法として武道を採用する所以のものは之に因りて心身の修養を成さんか為めなり故に平生の練習も其趣意に出つへく夫の氣合の如きも吾人より見れば心身活力の統一に外ならざるか如し精神内に充ちて姿勢外に正しく一進一退其度に適ひ然る後初めて武道の門に入るへし奇道を執り術数を施し一時の勝を制せんとするか如きは断して誤れるものと謂ふへし審判諸師範の公明なる亦此趣旨を諒とせらるへし尚ほ呉れ呉れも希望する所は体育の目的を没却せざらんことはなり青年氣鋭の諸君の事なれば興に乗し勢に駆られて過激の運動を為し却て病に冒かされ学業を怠るか如きは学生の体育として其当を失へること之を言ふまでもなし又他校試合に際し選手を出すに當り一定の人人を常に之に充つるか如きは不可なり宜しく何人をも順次交替に出す様改められては如何然らざれば一部の人人のみ体育に熱狂し他は興味をも感せざるに至るへし云云聊か証状授与に関する所感を陳へて御挨拶の辞となす』旨述へられたるに満場の人人孰れも首肯せるか如く右了りて佐藤、須田の大日本帝国剣道の形、中野讓君の長谷川英信流居合、中山師範中野君の神道夢想流杖術の形あり賞状授与終りて閉会、当日は例年に無き盛会にして第一等に当選し名誉ある金牌

を授与されしは佐藤君（中央） 稲月君（一高） 飯田君（中央）
の三名なりき